


第 260 回 都市懇サロン レポ ー ト	テーマ：「都市行政の最近の話題」		
講 師	国土交通省都市局 都市計画課 施設計画調整官 新屋 千樹さん	開 催 日	令和 4 年 5 月 17 日(火) 18 : 00~20 : 00
講 師 プロフィール	平成 8 年入省。 本省都市局・道路局の他、都市再生機構、 奈良県（道路建設課長）、沼津市（副市長） 等において、都市分野、道路分野を中心 に国及び地方自治体の行政実務に従事。 専門は都市景観。		
お話の概要	<p>□コンパクト・プラス・ネットワークとウォークアブルなまちづくり</p> <p>①立地適正化計画（都市機能誘導区域設定、ウォークアブルなまちづくり等）と②地域公共交通計画（公共交通機関の路線等の見直し、サービス向上等）の 2 本柱でコンパクト・プラス・ネットワークの都市構造を目指す。R 3 年時点で、①の策定都市は 671 都市、②の策定都市は 405 都市、①・②両方策定都市は、287 都市となっている。課題としては、複数市町村（例：姫路市周辺中播磨圏域）が連携して一つの計画を作成する事例がまだ少ないので、関心を広めることが大事である。</p> <p>令和 4 年度はコンパクトシティ形成支援事業による立地適正化計画の策定や変更の支援にあたり、544,817 千円(1.09 倍)の予算があり、利用要件として防災指針の策定、都市計画道路の見直し、目標値の設定、低未利用地等の活用等を計画する必要がある。また、引き続き、ウォークアブル区域制度での地域空間レベルでの官民連携による取組みも支援していく。参考例：街路空間等の再構築・利活用のベスト事例集（中小都市版）。</p> <p>□安全なまちづくりと防災指針</p> <p>「災害ハザードエリアにおける開発抑制」、「立地適正化計画の強化」、「災害ハザードエリアからの移転の促進」の 3 つが施行されている。</p> <p>「移転の促進」、「安全性強化」、「避難場所の確保」の取組みに予算を重点配分している。現在、防災コンパクト先行モデル都市に 17 都市（神奈川県厚木市、岡山県倉敷市、福岡県久留米市など）が選定されており、政策の普及を図っている。</p> <p>□その他の予算拡充</p> <p>都市構造再編集集中支援事業、都市再生整備計画事業、まちなかウォークアブル推進事業、エリア価値向上整備事業、脱炭素、無電柱化に関する整備事業など。</p> <p>□盛土による災害防止に向けた取組みについて</p> <p>R3 年度に実施した盛土の総点検等を踏まえ、今後、宅地造成等規制法の抜本的な改正（盛土の安全性の確保、責任の所在の明確化、罰則の厳罰化）を行う。</p> <p>□まちづくり DX</p> <p>スマートシティ実装化支援事業の補助 2.65 億円、プロジェクト PLATEAU7.0 億円</p>		
意見交換 の概要	関係機関との連携、市町村への普及について・・・実務的な作業や専門用語など障害を取り払う意味でパンフレット等を作成し関係機関で共有を図っている。土地利用レベルで議論が活発になるよう取組みや制度を設けていく。		
記録者の ひとこと	昨年度からさらに予算が拡充しており、コンパクトシティから防災、DX 等の取組みに積極的に支援が行われており、今後のまちづくりに期待が持てました。《都市懇サロン運営部会 委員 記録者氏名 高橋 晴也 記入》		